

終章

1. 理念・目的・教育目標の達成状況

本学は、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、「三無主義」（出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える）の学風を掲げ、6学部3研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育、研究、診療・実践、そしてリベラルアーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めている。

ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに則した教育を展開し、学生と教員の距離が近く、きめ細かな指導を実践している。この結果、学部における学修成果の指標として重視している各国家試験合格率及び就職率は、いずれも毎年、全国平均を大幅に上回る実績を上げている。

大学院における学修成果の指標としては、学位論文の質を重視している。インパクト・ファクター（IF）やサイテーション・インデックス（CI）の高い論文が数多く発表されていることは、当大学院に質の高い大学院教育とともに優れた研究成果を生み出せる確かな指導力があることを証明している。

今回の自己点検・評価の結果から、大学全体としては、教育・研究関係、学生関係、管理運営・財務関係において、それぞれの基準を満たしていると考えるが、継続的に様々なレベルでPDCAサイクルを回し、大学改革を進め、更なる高みを目指していきたい。

2. 優先的に取り組むべき課題

1) 文部科学省の医学部入学試験に関する指摘事項への対応

文部科学省による医学部入学試験に関する書面・訪問調査（2018(平成30)年8～9月）を受け、指摘があった件については、医学部において改善を図った。全学的観点からも、自己点検・評価運営委員会及び大学協議会において検証を行い、必要に応じ改善を図ることとした。

2) 3つのポリシーを起点としたPDCAによる教育・研究の質保証

3つのポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、教育・研究等に関する内部質保証システムを確立していくことが必要になる。「学生が何を身につけたか」という観点を重視して、学修成果の把握が適切にできるように評価方法を確立していく必要があり、2018(平成30)年度には、全学的にアセスメント・ポリシーを定めた。また、カリキュラムの改善に関しては、現行カリキュラムを評価し、改善の提言を行うカリキュラム評価委員会を各学部・研究科で整備した。教務委員会やカリキュラム委員会とは別の独立した組織で、客観的な評価を行うことにより、教育の質向上に向けて取り組んでおり、その成果は、大学協議会にて検証するというサイクルを確立していく。スポーツ健康科学部、医療看護学部及び保健看護学部では、このプロセスに基づいて、カリキュラム改正の必要性を認識し、2019(平成31)年度より、カリキュラム改正を行った。

3) 国際化の推進

国際化推進方針である「国際化ビジョン」に基づき、学位取得留学生数、短期受入留学生数、海外留学・派遣・研修等学生数及び国際交流協定校数の増加を図るよう取り組んでいきたい。

教育の国際的通用性に注目が集まる中、本学では、「TOEFL」、「IELTS」を中心とした英語教

育を全学で推進している。入学試験においても、国際化に対応できる素養を持った学生を求め、両試験に代表される外部評価機関の得点を出願条件に加える等の改革を継続したい。

研究面では、基礎医学と臨床医学が有機的に連携する優れた研究体制を築いてきたことが、多数の国際レベルでの論文発表に繋がっている。引き続き、国際共同研究を推進し、質の高い論文数の増加に注力していきたい。また、2018(平成30)年12月、本郷・お茶の水キャンパスに新研究棟であるA棟(I期)が竣工したことから、更なる研究の活性化が期待できる。2019(令和元)年には、学内外の研究開発シーズの社会実装を図るため、外部エキスパートとも連携し、ワンストップのインキュベーションサービスを提供する取り組みとして、オープンイノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」をスタートさせている。

4) 内部質保証推進組織の整備

本学は、これまで自己点検・評価を通じて、教育・研究等の質保証に取り組んできた。今後は、(公財)大学基準協会の第3期大学評価基準で求められる内部質保証システムの有効性を高めるため、全学的な教学マネジメントを行う「内部質保証推進組織」を整備し、PDCAサイクルの実効性を高めていきたい。

3. 今後の展望

1) 施設の整備・拡充

大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、2018(平成30)年度で11年を経過したが、当初方針の通り原資を手元資金で賄い、財務状況に影響を与えることなく各キャンパス・附属病院における施設の拡充計画が順調に推移している。特に、本郷・お茶の水キャンパスでは、順天堂医院の建替えが完了し、センチュリータワーを中心とした教育研究環境も飛躍的に改善できている。2018(平成30)年12月には、新研究棟であるA棟(I期)が竣工し、引き続きA棟(II期)に係る工事が進められている。順天堂医院では、B棟、C棟完成後の病院機能の移転・再編に伴う1号館外来部門・病棟部門の再編のための改修工事が進んでいる。今後も、計画に沿って着実に事業を進めていきたい。

また、保健医療学部(2019(平成31)年4月開学)の教育・実習施設として、御茶の水センタービルの大規模改修及び放射線実習棟の新築工事を進めている。国際教養学部入学定員増に対応する第3教育棟新築工事にも着手している。これらは、2020(令和2)年4月の運用開始予定となっている。

2) 教育・研究組織の規模拡大

2019(平成31)年度より、第6番目にあたる保健医療学部の開設並びに既存学部及び大学院研究科の入学定員増により、教育・研究組織の規模拡大を図った。今後も、入学志願者の増加が続いている既存学部・大学院研究科における入学定員増の検討を進めたい。また、浦安市日の出地区(約40,000㎡)に校地を確保しており、新キャンパス開設の検討を進めていきたい。

終章

4. おわりに

大学を取り巻く環境や大学に求められることが変わろうとも、学是「仁」、理念「不断前進」、そして学風「三無主義」からなる順天堂人としての文化、風土はぶれることはない。今後も順天堂は、永き伝統を継承し、自ら改革をすることを怠らず、教育、研究、診療・実践の質を高め、国際的にも評価され続ける「健康総合大学・大学院大学」として、社会貢献を進めていきたい。

2019（令和元）年9月

自己点検・評価運営委員会委員長

順天堂大学学長 新井 一